

NIPPON SCOUT JAMBOREE NEWS

CHALLENGE!

Vol.6



神石から 未来への一歩

挑戦した。笑った。仲間ができた。失敗したことだって、きっと大切な経験です。神石高原で過ごした日々の中で、昨日までとは少し違う自分に出会っているかもしれません。でも、19NSJはまだ終わらない。やり残したことはない？ 話したかった人はいない？ 残された時間も思いきり楽しんで、ここから未来への一歩を踏み出そう！

Move Forward to
the Future.



そなえよつねに
ボーイスカウト



挑戦は、まだ終わらない。 One More Challenge

神石高原で重ねてきた、たくさんの挑戦。

できたことも、うまくいかなかったことも、仲間と笑い合った時間も、すべてが大切な経験です。

でも、19NSJで踏み出した一步は、ここで終わりません。ここで得たものを胸に、それぞれの未来へ。

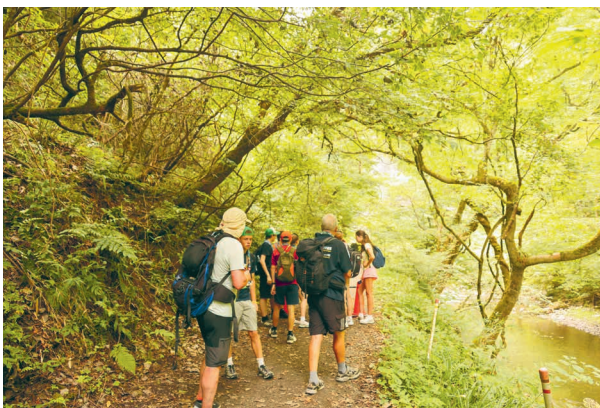
挑戦は、まだ終わらない。

清流と石灰岩が織りなす大自然へ！ 帝釈峡トレッキング

緑と清流、そして巨岩が織りなす「中国自然歩道 帝釈峡」を舞台に、場外プログラムのトレッキングが開催されました！

まずは帝釈峡博物展示施設「時悠館」で学びを深めた後、いざ神秘的な帝釈峡の森へ出発。世界三大天然橋の一つである圧倒的なスケールの石灰岩橋「雄橋」をはじめ、太古の営みを伝える「寄倉岩陰遺跡」、そして内部が約11℃とひんやり涼しく神秘的な鍾乳洞「白雲洞」などを巡りました。散歩中の犬も寒そうにするほどの気温に驚きつつ、教科書だけでは味わえない生の歴史や自然に触れる機会となり、ジャンボリー会場とはひと味違う静かな空間に感動するスカウトたちの姿が見られました。「鍾乳洞が1cm伸びるのに200年かかる」「ざらざらした岩の正体は石灰岩」といった発見や、昔の人がこの地形を利用して暮らしていた歴史に驚きの声を上げていました。最後には「ポイ捨てをせず今の環境を大切にしたい」「歴史を語り継いでいきたい」といった未来への強い思いを全員の前で堂々と発表しました。

雄大な自然と歴史を肌で感じたこの一日は、スカウトたちにとって忘れられない学びの体験となりました。



ブラスト体験工房 ～オリジナルカップを作ろう!～

世界に一つだけのカップづくりに挑戦!「ブラスト体験工房～オリジナルカップを作ろう!～」(提供:愛知連盟・新東工業株式会社)では、19NSJの大会ロゴが入った、自分だけのオリジナルマグカップが作れます。このブースは多くのスカウトから注目を集めており、予約はすぐに埋まるほどの人気ぶりでした。

体験では、コンプレッサーで作った強い空気の流れで砂やガラスビーズなどの細かい粒を吹き付けて表面を加工する「エアブラスト」に挑戦。シートがずれないように押さえながら均一に吹き付ける作業は意外と難しく、スカウトが真剣な表情で取り組んでいました。

指導にあたった新東工業株式会社の社員の方は、現役のローバースカウト。スカウト活動への理解が深く、一人ひとりのペースに合わせて丁寧に声をかけながら指導しており、初めて体験するスカウトも安心して取り組むことができました。

完成したマグカップを手にしたスカウトからは、「エアブラストは思っていたより難しかったけれど、自分だけのカップが作れてうれしい」「これからもずっと使いたい」という声が聞かれました。大切そうにカップを眺め、笑顔を見せる姿からは、ものづくりの楽しさと、19NSJの思い出が形になった喜びが伝わってきました。



悠仁さまの ボーイスカウト御体験記

悠仁さまは、7日の夜に大集会に参加され、その後自ら設営したテントで就寝し「涼しくてよく眠れた」と話されました。

朝食作りでは、悠仁さまが包丁を手に取り、大根やニンジンのカットを担当されました。水の量を確認して米を炊き、具だくさんの豚汁やハムステーキを調理。同年代のスカウトと名前呼び合いながら、終始フランクで細やかな気遣いを見せ



られました。共に過ごしたスカウトは「包丁さばきが上手で、自分たちで作ったご飯は最高に美味しかった」と感想を述べました。

その後のプログラムでは、丸太切りやバランスシートに挑戦。丸太切りではノコギリで桜の木を切り落とし、その香りを楽しむ姿を見せられました。バランスシートでは積極的にボールを拾いに行くなど、全身でジャンボリーを楽しめました。

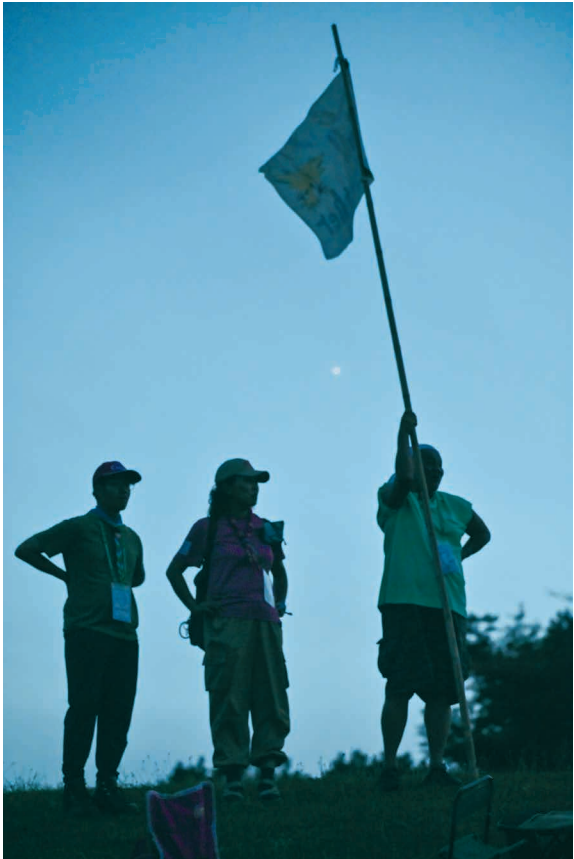
一緒に活動したスカウトは「特別な存在だけど、一人の同年代として対等に接してくれたのが何より嬉しかった」と語ります。

同じ景色の中で共に活動したこの時間は、神石高原で育まれた友情の記録として、スカウトたちの心に深く刻まれました。





最高の瞬間を、仲間と





スカウト通信員が活躍中！



中西峻太 スカウト通信員(大阪府)

私はSKYLINEのキャンプサイトへ取材をしに行きました。取材先に47都道府県のチーフを集めている猛者に訪ねました。彼はどうしてチーフを集めているのかを訪ねてみると三つの理由がありました。一つ目は「なんとなく交換していくと全部集めなくなったから」と答えました。もう一つは「隼プロジェクトとして集めている」と答えました。最後には「各地域の方言やチーフの形、デザインが全く違って面白いと思った」と答えました。彼は現在なんと27本のチーフを交換していました。チーフを集めるために彼は、チーフやワッペン、グッズを用いて交換していったとおっしゃっていて、彼からの一言は「まだ交換していない地方の方ともっと交流して交換したい」とおっしゃっていました。



上村應介 スカウト通信員(東京都)

8月8日サブキャンプさずなでおみくじを発見しました。そこは京都第3隊のサイトでした。おみくじ代を熊本地震へ募金するとのことで、たくさんのスカウトがおみくじを引いていました。おみくじを運営していたスカウトに取材をしてみると、熊本地震について皆で考えてみた時に、募金をする案が出て8月7日当日にすぐ実行に移したそうです。その行動力に驚きました。さらに、京都の神社仏閣をモチーフにおみくじを取り入れ、おみくじも実際に作成したのだそうです。皆くじ引きの運営を楽しんでいるそうで、賑やかにグッズ交換などの交流も行われていました。現在、約三万円もの募金が集まっているそうです。

このくじ引きは8月9日まで行っているそうなのでぜひいってみてください！



8月7日・8日にジャンボリー会場に訪れていた悠仁さまを、報道関係者とともにスカウト通信員が取材しました。

原 理仁 スカウト通信員(広島県)

各都道府県とガールスカウトの代表者が集まって、悠仁さまとの交流を行っていました。ジャンボリーでの活動・普段の自分たちの団の活動などを話し、交流を深めていました。特に印象に残ったのは、悠仁さまの接し方です。

僕は最初すごく悠仁さまは遠い存在だと思っていましたが、インタビューを見ているとそのようなことはなく、フレンドリーに話しかけているのが印象的でした。例えば、緊張して何を話そうか忘れていた人に優しく「ジャンボリーではどのようなことをしましたか？」と声をかけてあげていたり、最後は「ありがとう

ございました」と語りかけるようにスカウトに話しかけ、自然とスカウトの笑顔を作り、さらには悠仁さまの方から「どのような事が難しかったですか」や、自分の団の活動でカヌーをした人に対しては、「漕ぐのが難しいですね」など悠仁さまは、寄り添いながら友達のように話しかけ、冗談や笑顔を自分から作り、相手に心から傾聴していました。そしてインタビュー後の大集会ではたくさんの人から手を振ってもらっていたのは、相手の事を心から思い、行動に表している悠仁さまの良さが存分に出ていたからこそおこった出来事だと思いました。

貫 溪一郎 スカウト通信員(福岡県)

悠仁さま 19NSJの報告を聞かれる代表スカウトとご懇親、熊本地震にも触れる

秋篠宮家の長男・悠仁さまは7日、第19回日本スカウトジャンボリーを訪ねられました。白いネッカチーフをつけられた悠仁さまは、各県の代表スカウトからの、友情ゲームや、平和記念式典、交換会などのプログラムや、キャンプ生活についての報告に、ほぼ笑まれながらうなずかれたり、反応や質問をされていました。その後、ジャンボリーの活動について、さまざまなことが聞けたとして、感謝のこたばを述べられました。

代表スカウトのうち、熊本の高橋寛太さんは、令和8年熊本地震を受けて考えた募金活動を実施していることを話しま

した。これに対して、悠仁さまは、隊のスカウトやその家族が無事かを尋ねられたり、考えて行っている活動が人の役に立っていると述べられたりしました。高橋さんは、悠仁さまについて、「年代が近く、思ったより身近に感じられた。親身に詳しい話を聞いてくださり、丁寧にやさしく、話しやすかった。」と話していました。

また、悠仁にさまにお話をしたことが、さらなるやる気につながったとしたうえで、次はもっと多くのことを実施し、地震などのときに人の役に立ちたいと決意していました。

秋山 結希 スカウト通信員(岡山県)

8月8日、KIZUNAキャンプ内にある広島第2隊のテントサイトに悠仁親王殿下が体験にこられました。そのときの様子を通信用として見せてもらいました。そのときの様子についてです。

朝6時ごろ、ジャンボリー本部の周辺に多くの記者さんたちが集まりました。そして広島2隊のテントサイトの周辺へ移動しました。6時30分ごろ悠仁親王殿下が広島2隊のテントサイト

にこられました。広島2隊の人とあいさつなどをかわしたあと朝食の調理を始められました。悠仁王殿下は、にんじんと大根の皮むき、いちよう切りにし、肉をいためるなどしていました。今日の朝食は、ごはん、ハムステーキ、豚汁とたくあんでした。

広島2隊の人たちと親王殿下が楽しそうに会話している様子がうかがえました

松下 侑生 スカウト通信員(岡山県)

8月7日の午前6時30分ごろ広島第2隊のスカウトと、悠仁さまと一緒に朝食を作っていました。最初はお互い少し緊張しているようでしたが、昨日8月6日にも一緒にテント設営をしていたこともあり、すぐに打ち解けて、朝食作りを行いました。悠仁さまは、とん汁を作っていました。大根やにんじんを丁寧に切っていて、ピーラーも手際よく使っていました。

普段はあまり料理をしていないそうです。広島スカウトとよく話しており、笑顔が多く見られました。スカウトが「めっちゃいいじゃん」などたくさんの声をかけていました。6時40分ごろにはお米の炊き方も教えてもらっていました。「何回もやるとなんとなくわかる」とスカウトは言っていました。私も、広島第2隊のスカウトも良い経験ができました。私は、もう一度会いたいの、富士章を取りたいと思いました。



お詫びと訂正

Jamboree NEWS Vol.4に掲載したスカウト通信員の記事において、記者名および所属県に誤りがありました。訂正してお詫び申し上げます。

【誤】藤井瑚太郎 スカウト通信員(岐阜県)

↓

【正】池田陽世里 スカウト通信員(福島県)

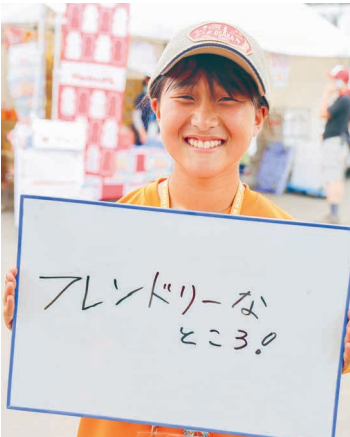
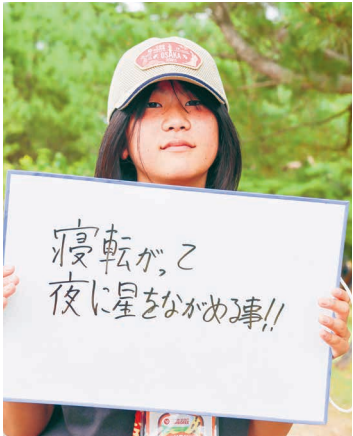
JAMBOREE VOICE

ボイス

ジャンボリーには、思わず「すごい!」と
声が出る瞬間がたくさんあります。
壮大な景色、仲間の挑戦、世界中のスカウトとの交流、
心を動かされた出来事…。
あなたが見つけた「すごい!」を教えてください。

多くの
かたに撮影に
ご協力いただき、
ありがとうございました。

今回のテーマ: 私のいちばん!



BEHIND THE SCENES

ジャンボリーを支える 運営スタッフのお仕事

会場運営部

水道や電気、トイレなどの設備を整え、資材の管理や
ごみの回収を担当しています。みんなが当たり前のように、
安全で気持ちよくキャンプを続けられる環境を、陰で
しっかりと守り続けています!



楽しいジャンボリーで
思い出をたくさん作っ
てください!



会場運営部長
岡本 明広さん



この1週間たくさんの
素敵な笑顔を見せてく
れてありがとう!仲間と
のたくさんの思い出を
心のフィルムに残してお
いてね!

広報部

この「ジャンボリー新聞」の発行や、動画での
記録、取材対応をしています。スカウト通信員と
一緒に会場の「今」を切り取り、みんなの活躍や
熱気を全国へ発信する、大会の魅力を伝える広
報チームです!



広報部長
寺道 紘毅さん

SUB CAMP REPORT

神石高原から届ける、特別な一枚のはがき

大会本部近くで行われている郵便サービスでは、大会期間限定の小型記念日付印の押印や、ゆうパック・郵便物の発送受付、切手や絵葉書の販売が行われています。そんな中、兵庫県から見学に訪れたビーバースカウトやカブスカウトたちが、はがきを送るために集まっていました。

今回送るのは、ここ神石高原から、普段暮らしている兵庫県の家族へ届ける特別な一枚。スカウトたちは、これまで自分で住所を書く機会があまりなかったようで、リーダーの方々に教えてもらいながら、一文ずつ丁寧に書いていました。さらに印象的だったのは、はがきの裏面に書かれたメッセージ。一緒に来ていた親御さんには内緒で、「いつもありがとう」「大好き」といった、普段は少し照れくさくて直接伝えられない気持ちを書いていました。一緒に来ている家族に見つからないように必死に隠しながら書く姿からは、大切な思いが伝わってきました。

このはがきが家に届いた時、受け取った家族はきっと笑顔になることでしょう。19NSJでの思い出だけでなく、感謝の気持ちまで届けることができる郵便サービス。小さな一枚のはがきが、遠く離れた家族との絆をつなぐ大切な役割を果たしていました。



「今度は私たちが力に」能登の感謝を熊本へつなぐ



「能登地震で助けてもらったから、今度は私たちが力になりたい」そう語るのは、石川2隊の萬谷さん、湯村さん、久保田さんら。サブキャンプでは、熊本地震の復旧を応援する募金活動を行っていました。被災地から被災地へ。自分たちが受け取った支援への感謝を、今度は熊本へ届けたいと真剣な表情で話します。募金に協力した人には、色とりどりのパステルカラーが目を引くオリジナルネッカリングをプレゼント。取材中には台湾の派遣隊も訪れ、国境を越えて募金に協力する姿がありました。その思いに、石川2隊のメンバーも感銘を受けた様子。「助けてもらった経験」が、次の誰かを助ける力になる。スカウトからスカウトへ、そして国を越えて広がる支援の輪が、熊本の復旧につながることを願います。

令和8年熊本地震 被災地へ、私たちにできることを。

令和8年熊本地震の被災地を支援するため、第19回日本スカウトジャンボリーでは募金活動を実施します。地域プログラムでの街頭募金や会場内の募金箱を通じて、被災地へ支援を届けます。

8/8^土
募金総額

606,333円

みなさんのご協力を
よろしくお願いします

DISCOVER JINSEKIKOGEN

ジャンボリーの舞台・神石高原町には、豊かな自然やおいしい特産品、地域の人たちが大切に受け継いできた文化など、たくさんの魅力があります。このコーナーでは、毎号ひとつずつ神石高原の「宝もの」を紹介します。

広島の方言

神石高原でも使われている方言(広島弁)を紹介します。県外の仲間にあったらお互いの方言について話してみよう！

方言	意味	使い方
ぶち	すごく、とても	ぶち美味い!ぶち楽しい!
～じゃけえ	～だから、～なので	仲間じゃけえ助け合おう!
たいぎい	面倒くさい、つらい	料理をするのがたいぎいわ。
たちまち	とりあえず、ひとまず	たちまち集合しよう
わし	私	わしがやるうか? (小学生で自分のことを「わし」と言います)



安全・警備部 からのお願い

安全・安心で笑顔の出発へ

みんなの笑顔と熱気にあふれたジャンボリーも、ついに閉会を迎えつつあります。ここまで最高の思い出を作れたのは、参加者全員がルールを守り、お互いを思いやって行動してくれたおかげです。安全・警備のスタッフ一同、みんなの素晴らしいスカウトスピリッツに心から感謝しています。

最後の一瞬まで安全に過ごすために、次の2つのことをやってみましょう。

1 帰るときは 「焦らず、ゆっくり」

最後の最後にけがをする、事故にあうということはよくあります。慣れや疲れからの一瞬の油断が生まれるのです。けがや事故が起こりやすいことを意識して、いつもよりゆっくり進めましょう。

2 荷物を整理して 忘れ物なし!

手に入れたワッペンやお土産、自分の大切な荷物など、無くなってしまったら痛ましいです。そこで最終日まで一度荷物を再整理してみましょう。急いでいた時に思わず突っ込んでしまったものなど整え直すと忘れ物がなくなるだけでなく、心も落ち着きます。

「お家に無事に帰るまで」がジャンボリーです。たくさんのお土産話を持って笑顔で帰れるよう、最後まで安全第一で協力しましょう!



中央救護所 からのお知らせ

▶今、増えているのは…

「疲労からくる消化器症状 下痢・便秘・腹痛」などと「夏風邪」

疲労からくる消化器症状としては、胃腸疲れや消化機能の低下に近いものです。

疲れや睡眠不足、暑さ、食事の乱れ、緊張などが重なると、胃腸の動きや消化力が落ちやすいとされています。

キャンプ中の胃腸症状は感染性胃腸炎でも起こります。

嘔吐、下痢、腹痛、発熱が強い場合や、周囲にも同じ症状の人がいる場合は、疲労だけでなく感染症も疑います。

夏風邪は“のどと胃腸にくる”のが特徴です。休息・水分補給など熱中症対策と同様な対応が必要です。

夜間の活動も楽しいのがジャンボリーの醍醐味ですが、睡眠をしっかり取るように心がけ、休息をとることが大切です。

睡眠不足は胃腸の回復を妨げる大きな要因ですので注意しましょう。

2026年8月9日(日) 神石高原町の天気・気温

8/10(月) 8/11(火) 8/12(水) 8/13(木) 8/14(金) 8/15(土)

31 30 28 28 30 30

最高気温(°C)

21 16 16 19 19 20

最低気温(°C)

weather map

低 高

台13 台15

予想 8月10日 9時

気象予報士

さんちゃんのお天気メモ

神石高原での生活もあと1日。朝晩の気温差の大きさ。日中の日差しのきつさ。夜風の気持ちよさ。街に住んでいるとなかなか気づけません、これが本当の「日本の自然」です。いろんな体験や友情とともに、この豊かな自然・気候のことも覚えておいてもらえると嬉しいです。

協賛企業

Platinum Sponsor



Gold Sponsor



Silver Sponsor



Bronze Sponsor



Official Supplier



株式会社ウェザーマップ／オタフクホールディングス株式会社／株式会社森岡商店

第19回日本スカウトジャンボリーは、2026年度日本万国博覧会記念基金の助成事業として実施いたします



ジャンボリー新聞

発行：第19回日本スカウトジャンボリー広報部
印刷製本：中国新聞印刷株式会社